

1-9

経管栄養から経口摂取に至るまでの取り組み

意識改革

個別ケア

特別養護老人ホーム 水元ふれあいの家

| | |
|--------------------|------------------------------------|
| 介護副主任 中村 圭士 | 介護課 伊東 淳 |
| 東京都葛飾区水元 1-26-20 | 介護課 笹原 修司 |
| TEL : 03-3607-7881 | E-mail : fureai-no-ie@jinseisha.jp |
| FAX : 03-3627-0151 | URL : http://www.jinseisha.jp |

| | |
|----------------------------|--|
| 今回の発表の施設 またはサービスの 概要 | 我がホームは、昭和 63 年 3 月葛飾区最初の特別養護老人ホームとして開設しました。当初から永い経験と実績を誇る社会福祉法人仁生社が運営を任されてきましたが、平成 13 年度から事業主体も区から当法人に移行して、名実ともに当法人が責任を持って介護サービスを提供しております。 |
|----------------------------|--|

<取り組んだ課題>

・食事形態が経管栄養で入所された方が、経口からの食事摂取に移行されるまでの取り組みを行った。
入所時言葉がうまく話せず、意思が伝わりにくい事で興奮してしまう事が多かった。経管栄養の実施中に管を抜いてしまう事も多かった為、環境を変えると行動に変化を発見する。「食べたい」という意欲を感じられた為、経口摂取に移行できないか検討する。

<具体的な取り組み>

7月中旬・・・一口ゼリーからの嚥下訓練開始
8月・・・通常の大きさのゼリー変更
9月中旬・・・昼食のみ W ミキサー1/2 量開始
10月中旬・・・食事の際、水分（とろみ）経口摂取開始
11月・・・昼食 W ミキサー全量へ変更。午前・午後の水分、おやつ経口摂取開始
12月中旬・・・朝食開始
2月上旬・・・夜中に空腹の訴え多くなる
4月・・・夕食時も動きが活発化になる
6月上旬・・・夕食開始

<活動の成果と評価>

- ・発語が増える
- ・言葉が伝わりやすくなった事で、興奮してしまう事が少なくなる。
- ・リハビリへの参加意欲増加
- ・立位の安定
- ・特浴槽から一般浴槽へ
- ・車椅子操作の上達

<今後の課題>

- ①直接希望を訴える事が出来ない利用者様に対しても、一人一人の出すサインを見逃さずそれに応えていく。
- ②希望や楽しみがひとつ達成される事で、生活全体が活性化されていく事がある。以上の点を念頭に置き、介護に当たることが重要と考える。

【メモ欄】